

経営比較分析表（令和4年度決算）

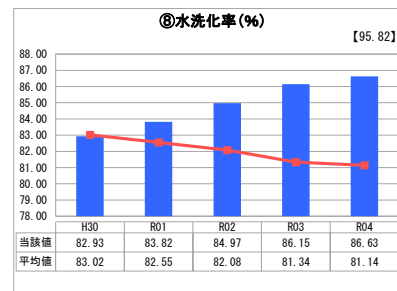
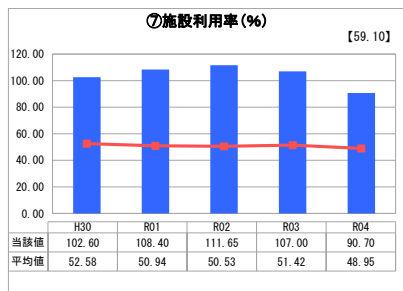
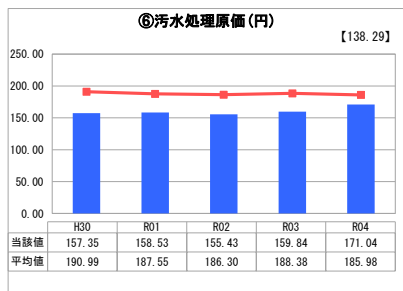
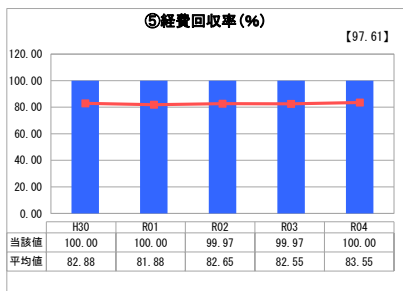
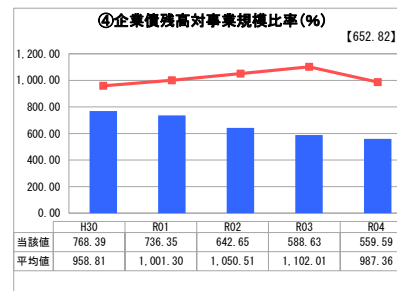
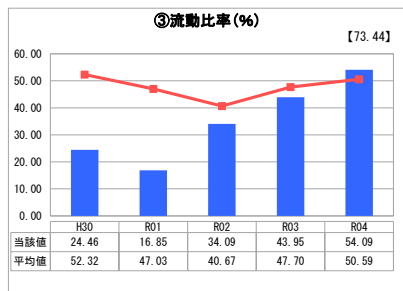
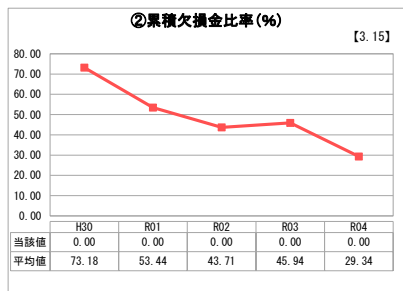
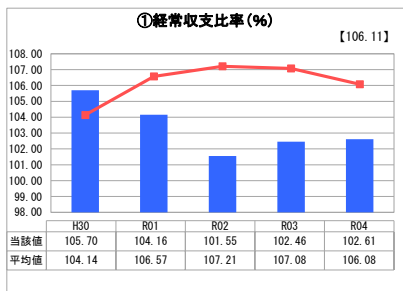
福岡県 筑前町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Co2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.02	90.35	90.00	3,780

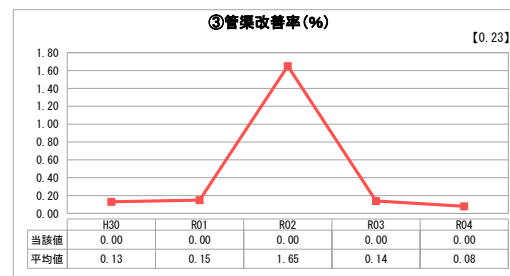
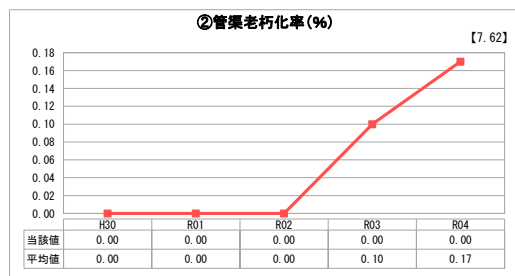
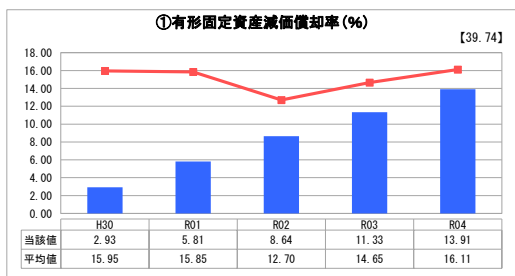
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,233	67.10	450.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
27,298	7.80	3,499.74

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
100%を超え経営状況は健全である。

②累積欠損金比率
0%であり、引き続き適正な経営を行う。

③流動比率
企業債償還が多いことが原因で低率になっている。流動資産は徐々に増えており、今後償還額が減少すればさらに上昇すると予測される。

④企業債残高対事業規模比率
使用料収入の増加に伴い比率は徐々に下がっているが、企業債償還を一般会計繰入金で賄っている状況である。今後も計画的な施設更新や適切な投資計画で健全な経営を図っていく必要がある。

⑤経費回収率
100%に近い水準で回収すべき経費を使用料で賄っており良好である。

⑥汚水処理原価
類似団体と比較すると低い水準である。引き続き接続率の向上や維持管理費の削減に努め効率的な汚水処理を実施する。

⑦施設利用率
100%に近い水準で推移しており、施設は適正規模と判断する。

⑧水洗化率
水洗化率は徐々に増加している。類似団体と比較しても高い水準であり、継続して水洗化率向上を目指す。

2. 老朽化の状況について

本町の公共下水道事業供用開始は平成12年である。法定耐用年数を経過した管渠はないが、定期的な視点検・調査結果では、硫化水素に起因する腐食の箇所が一部みられる。浄化センター機器類も老朽化に伴う不具合等発生し、随時修繕している。ストックマネジメント計画に基づいた改築計画を基に、緊急性等も考慮しながら、段階的に更新を行っている。

全体総括

本町の水洗化人口は微増傾向にあるが、少子高齢社会の進行により、大幅な料金増収は見込み難い。また老朽化による下水道施設の改築更新工事が今後の下水道事業経営を圧迫することは十分に予想される。ストックマネジメント計画に基づいた計画的・効率的な事業運営で、健全な下水道事業経営を目指し、安定した下水道サービスの提供と町民サービスの向上に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。